



広島大学で二十年間理髪をして

広島大学理髪部店主 鎮守 靖子

のものとして当然に理解できません。しかし、この小説ではそのような結末を迎えません。人間が恨みや復讐心を簡単に忘れることができないことは当然です。しかし、私達はいつかは「恩讐

の彼方に」立たなければならぬ。そのために、私達はこれからも精神的交流を進めていかなければならないと思うのです。たとえそれがどんなに苦痛に充ちた道であろうとも。

昭和四十八年四月頃、主人の勤めの関係でそれまで経営していたお店をやめて一ヶ月間位新聞の求人欄を見ていました。六月中頃広大理髪部の募集が目につき、主人と相談の上面談に行きました。立派な職場かなと思いましたが想像以上に古びたお店で、これでは駄目かと思ひ、二、三日考えさせて下

さいと申しましたら、今は亡き店主の前田様よりぜひ明日から来てくれといわれ、その言葉にほだされて翌日から出勤致しました。当時はお客様も少なく、これで営業できるのかなと思いましたが、ところが前田様が勤め始めて十日目位に急に亡くなられ、不安で一杯でした。そうこうしているうちに厚生課の方から後任としてやって行ってくれと言われ、断わることもできず今日までやって来ました。それから、職人を新たに募集し、職場をいかに美しくしたらお客様に喜んで貰えるか努力致し、二十年が過ぎました。

周囲の街並の変化

約二十年前、私が勤め始めた頃は昔の家が建ち並んでいましたが、今頃は

立派なビルが建ち、昔の面影もありません。それに広島大学が全部西条に行けば、どんなに変わるだろうなど、想像もつきません。二十年間も電車通勤した広大前電停も何んと言ふ電停になることや、つい淋しくなります。

学内の様子

最近、急に淋しい感じが致します。西条に移転された教育学部、理学部等の学生さん達は、今頃どんなにされておられることや、時おり、西条より来て理髪して下さる学生さんには本当になつかしく、昔話しに花が咲きます。それから、長年学生さんや職員の方々を見守ってくれた、理学部前の杉の大木が昨年の台風一九号で倒れ、ぶざまな姿をさらしているのを見た時には涙が流れました。長年多くの学生さん達を見守ってくれた杉の大木の記念にと思い、杉ボックリを持ち帰り、お店に置いて居ます。

学生さんの気質の変化

勤め初めの頃の学生さんは、とても無口で、頭も汚れていたと思います。それでも、卒業された方、また社会人となられた方が、当事の事をハガキで書いて送って下さり、本当に良い職場

についたなと思ひ、胸が一杯になりました。今頃はとてもおしゃれで明るく、冗談も言われます。時代の流れと言え、それまでですが、余りにも恵まれてこれだけ良いのかなと思ふ事もありました。

思い出に残ること、大学に一言

思い起こせば、あの悲しい事件には本当にビックリ致しました。今後この様なことのないことを祈ります。

また、お客様がお待ちにならないでいただける様、職人の募集、職場をいかに綺麗にするか等、本当に苦勞の連続でした。

一度来て下さってお客様が続けて来て下さると本当にうれしく思いました。特に、職員の方、学生の方々から、奥さん西条でもやって下さいと言われた時には、涙が出るほどうれしく思いますが、都合上東千田町の勤務のみで終わりに致します。

つまらぬ私ではございましたが、長くご利用下さいましたお客様には深く感謝致しております。本当に有り難うございました。

一言 「西条での理髪部は、設備を良くし、明るい職場にしていたく様お願いします。」